



エコ計画



井上 綱隆 氏
エコ計画
代表取締役社長

井上 綱隆(いのうえ・つなたか)氏：1986年エコ計画入社、93年取締役、本社環境管理部取締役、経営企画室担当常務取締役を経て、2006年より現職

写真＝エコ計画提供

廃棄物のコンサルティングにも注力

産業廃棄物処理をワンストップで手掛ける過程で、新しい設備を導入し、社会課題の解決を図る。廃棄物処理工程で排出されるCO₂の削減やリサイクルを重視、企業コンサルティングにも関わる。

——産業廃棄物処理の企業として、事業の中でESGやSDGsをどう位置付けていますか。

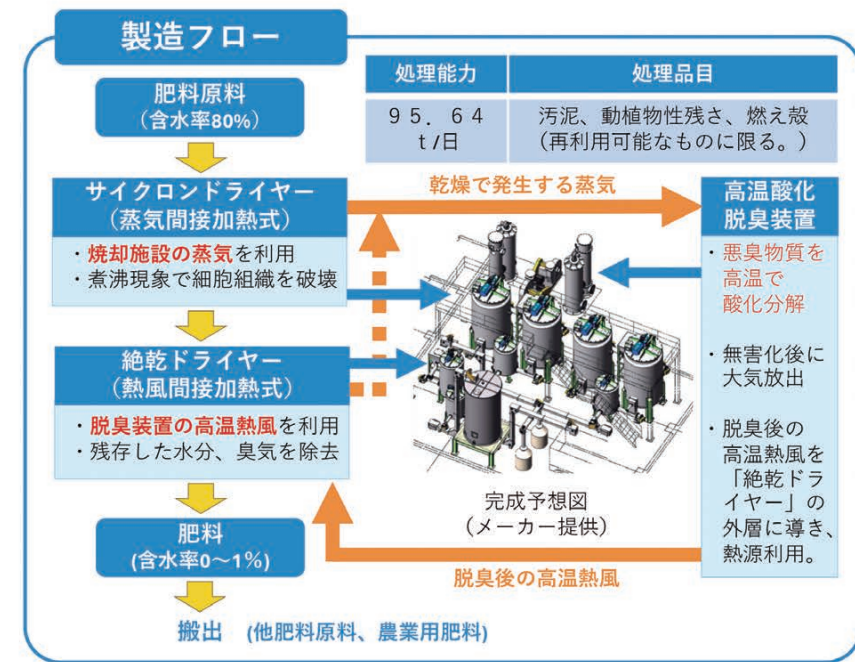
井上 当社は産業廃棄物の収集、中間処理、最終処分までワンストップで手掛ける、総合処理、リサイクル業の会社です。創業当初から地域貢献や社会貢献、地域社会との共生を企業理念に掲げて事業を展開してきました。事業そのものがESGや

SDGsと高い親和性があります。

SDGsの17の目標については、グローバル目標のため難しさもありましたが、全17目標を2023年に達成しました。さらに取引先企業に発信するための、客観的な評価が必要との視点から、企業のサステナビリティ評価機関であるエコパディスから評価を受け、コミットメントバッジを授与されました。

環境、人権、倫理などの項目の中で評価されたのは、ISO規格を業界に先駆けて取得したり、森林保全活動が認められたりといった長年の取り組みの他、近年、コンプライアンス規定を見直したこともあったと思います。今後、さらに上位のメダル取得を目指すことで、企業価値の向上につなげていきたいと考えています。

■ 新たに導入する肥料化施設の概要



焼却施設の蒸気を利用したCO₂排出量が少ない施設で汚泥に高温の熱風を当てる。臭気を抑えることができるので、処理後すぐに肥料として使用できる

出所：エコ計画



——この1年で特に力を入れた取り組みは何ですか。

井上 お客様のニーズは、単なる廃棄物コストの削減から、CO₂削減やリサイクルを重視した廃棄物処理の流れ(フロー)の構築へと移行しています。

こうした社会環境の変化を的確に把握し、あらゆるニーズに対応できるよう、コンサルティング力を強化してきました。お客様から「まずはエコ計画に相談」という声が増えました。お客様の様々なニーズに対し、廃棄物の適切な処分や作業効率への提案能力を強化しています。

——事業計画や設備投資のポイントがあれば教えてください。

井上 時代のニーズに合わせた新たな肥料製造装置の導入を進めていま

す。25年末までに埼玉県から設置の許可を経て設置工事を完了後、26年3月末までに「菌体りん酸肥料」の登録を行ない製造を開始する予定です。菌体りん酸肥料は、下水汚泥などから作られる肥料の利用促進のために作られた新しい肥料の規格です。

埼玉県のサーキュラーエコノミー推進事業にも参画しています。リサイクル業者として、23年から埼玉スタジアム2002のゴミの中間処理を行なうことで、実証実験に協力してきました。25年度も県より要望があれば積極的に参画する予定です。

汚泥を無臭化して肥料に

——新規の肥料製造施設はどのような利点がありますか。

井上 新しい肥料製造施設は焼却施

設の余剰蒸気を燃料とするため、化石燃料に依存せずにCO₂の排出量を削減できます。

原料となる廃棄物のし尿、食品工場の残渣、排水施設から出る汚泥の臭気が問題となっていました。新しい設備の乾燥工程は高速回転により瞬間的に加熱と煮沸と乾燥ができるため、処理能力が高い上に乾燥時の水蒸気と共に臭気を除去し無臭・無害化ができます。

通常、肥料は土中にまいて3週間ぐらいかけて発酵させるのですが、新しい設備でできる菌体りん酸肥料は発酵させることなく、サイクロンドライヤーに入れて加熱処理後、すぐに肥料として使えることが最大の特徴です。

処理の過程で肥料は細胞が破壊されて長期保存ができる上、滅菌処

始めたSNSの発信でアジアからの観光客が増えたり、応援のコメントが届いたりするようになりました。結果的に良い広報活動になっていると考えています。

スピーディーにニーズ対応

——25年で創業55周年を迎えます。今後、どのような企業を目指していきますか。

井上 CO2排出量の削減やサーキュラーエコノミーに向けた取り組みの強化など、リサイクルに対する社会的重要性は一層の高まりを見せています。

55年間にわたって積み上げてきた産業廃棄物処分に関するノウハウを生かし、これからも収集や各処分場の安全操業を続けていきます。加えて社会のニーズに対して的確かつスピーディーに応えられるよう、新たなリサイクル技術の向上、ラインアップの充実、提案力の強化に努めながら、環境貢献、社会貢献を果たしていきたいと考えています。

課題は人材の確保です。初任給を引き上げるといった施策はしていますが、新卒者が集まりにくい現状があります。一方で、現在働いている社員の紹介で、中途採用で入社する人が多いのが特徴です。何かの理由で退職する人がいても、適性人員を充足できています。

社員一人ひとりが、当社の事業内容を評価していきいきと働くことができる環境を整えていきます。会社に対する愛社精神（ロイヤルティー）をもった社員を増やすことと、新しい人員の採用を同時に進めたいと考えています。

■ 廃棄物の相談や人材派遣業の拡充についての概要

「廃棄物の窓口」は、廃棄に関する様々な課題を解決する。人材派遣サービスは人手不足を解消するため廃棄物処理のための人材を派遣する

出所：エコ計画

から「現場の人が足りない」との声が多く、24年4月から人材派遣事業「ワークスコープ&青空」も開始しました。人材派遣で特に希望が多いのがフォークリフトの現場管理の仕事です。24年12月時点で10人を派遣しましたが、需要に応えるには3倍の人数が必要です。

今後は派遣人材の確保も進めたいと考えています。需要は増えており、25年度は6000万円強の売り上げを見込んでいます。26年度は1億円の売上目標を立てています。

廃棄物に関連する業務や、業者の選定が大変という悩みが、当社と関わりが深い中堅企業から寄せられています。「企業に常駐してもらい、廃棄物管理そのものを任せたい」という相談も数社から来ています。

選別の方法でどのようにリサイクル効率上がるか、運搬の方法でCO2の排出量が減らせるのかといった悩みもきますが、こうした相談にも対応できるようにしています。

コンサルティングを依頼していた

だいた企業にも、当社にとってもメリットがあるようにしたい。「廃棄物の窓口」を前面に出して企業価値を高めていきたいと考えています。——スタートアップ支援もしていますが、新たな取り組みはありますか。

井上 起業家やスタートアップ支援のために社内に「エコ計画ラボ」を設置しました。新規事業を育成するため、目先の利益よりも長期の視点を持つようにしています。大手銀行の紹介により、スタートアップ企業との面談会にも参加しています。

当社は複数のグループ会社があるので、廃棄物や環境関連の企業経営を担う人材を募集する際には、「エコ計画ラボ」の取り組みもアピールしています。

——旅館業も営んでいますが、インバウンドの影響はありますか。

井上 群馬県で温泉旅館を経営しています。外国人の従業員も採用していますが、24年にベトナム出身の女性2人を採用したところ、明るい接客をしてくれています。彼女たちと



理がされているため肥料の原料として取り扱いやすくなります。

菌体りん酸肥料は肥料製造業者に販売する予定です。他の種類の肥料と混合して活用できるので、幅広い用途があります。国の施策として下水汚泥の活用に力を入れていることに加えて、海外から輸入している肥料の原料が高騰しているため、国内資源を利用した肥料への転換が注目されています。

以前から当社が下水やし尿を利用して肥料化してきた実績から、新しい肥料製造に対する行政の期待は高く、汚泥という廃棄物を再資源化

するニーズに応えることが最大のメリットです。

——サーキュラーエコノミー実証実験に参画しています。埼玉県との連携について教えてください。

井上 Jリーグに加盟するプロサッカー клуб、浦和レッドダイヤモンズ（浦和レッズ）のスポンサーをしており、本拠地の埼玉スタジアム2002の廃棄物処理を担ってきました。

埼玉県の犬野元裕知事はサーキュラーエコノミーの推進に力を入れており、「埼玉スタジアム2002の試合で発生する、廃棄物の循環利



埼玉スタジアム2002で肥料化の実証実験

製品化に向けての貢献が期待できます。まだ実証実験の段階ですが、埼玉県のサーキュラーエコノミー推進事業計画に沿うかたちで推進してまいります。

——廃棄物処理、リサイクル事業をワンストップで手掛けていますが、新しい取り組みはありますか。

井上 リサイクル事業の中で、処理が難しいベッドマットに関しては自動投入装置を導入したことにより、自動化、省力化を図ることができました。

重機でベッドマットを1枚ずつつかんで投入するといった作業がなくなり、CO2排出量は94%削減できま

した。各自治体からの施設見学も多く、関心の高さがうかがえます。

ベッドマットを粉碎した後、金属はマテリアルリサイクルが可能です。破碎残渣は様々な要因で再資源化が難しく、焼却処理（サーマルリサイクル）をしていました。現在、破碎残渣についてはマテリアルリサイクルの手法を検討中です。

人材派遣業の需要が増加

——近年力を入れているコンサルティングサービスについて教えてください。

井上 廃棄物全般におけるアドバイスや代行、コンサルティング業務をする部署を「廃棄物の窓口」として

用の実証実験ができないか」と声がかかったのが23年です。

24年は食品残渣を回収し、分別して肥料化する実証試験に協力しました。埼玉県の農家さんの協力を得て食品残渣を活用した肥料で野菜の生育と収穫をし、埼玉スタジアム2002で食材として提供しました。大野知事を表敬訪問した際には、収穫した野菜で料理を作り一緒に食べましたが、高い評価をいただきました。

当社の新規肥料製造施設が稼働すれば、食品残渣を短期間で肥料化できるので、国内資源の再資源化や



23年に設置し、商標として登録もしました。メーカーなどの廃棄物集積現場の管理方法の悩みや、行政関連でゴミの持ち込みに関する選別作業への悩み、廃棄物の環境リスク軽減やコストの削減など、様々な課題を解決するためのコンサルティングを手掛けています。

相談を受けた企業のニーズをくみ取ることで、当社の処理施設を充実させていくこともできます。収集運搬や管理業務会社など外注先は200社あるため、ノウハウが蓄積しており、あらゆる課題の解決に役立てることができま

数多くの産業廃棄物を扱う企業